

翻訳にあたってのヒント

その 103

■ 「(値段が) 安い～」の英語表現について一言

近年、LCC (low-cost carrier) と呼ばれる格安航空会社 (ローコストキャリア、低運賃エアーライン、低コスト航空会社とも呼ばれる) が、航空業界に彗星のように現れ、新興事業として活躍し、日本のみならず他国でももてはやされているが、これは英語では「budget airline」「budget carrier」「budget airline company」などとも称される。前者の「low-cost」は「コストつまり原価を低く抑えたため、その結果として価格＝運賃が安くなっている～」ということが連想される言葉であり、後者の「budget」はどちらかと言えば買う側から見て「手ごろな～」という意味合いが強い言葉であろう。これは「安っぽい、ちやちな、安物の～」といったニュアンスの強い「cheap」の婉曲語であるので、それをややぼかしニュートラルな語感で買い手や潜在客に抵抗なく受け入れてもらうための一種の宣伝文句だと言える (特に旅行業界でよくお目にかかる)。

その意味で、自分としては「budget ...」の意味として、既出の「格安 (の) ～」の他に、「予算の限られた方 (お客様) 向けの～、予算を切り詰めた方 (お客様) 向けの～、出費を抑えたい方 (お客様) 向けの～、お得な～、お買い得な～、お手頃な～、値頃感のある～、エコノミー～、etc.」という定義も加えてみたい。

ついでに、この「安い」は日本語でも、「低価格の～、廉価な、安価な～」という別の言い方もよくされるので、その場合には「inexpensive ...」とした方があたりさわりのない中庸を得た表現となる。この違い (cheap との) は、このホームページの読者諸氏にご存じだとは思いますが、英語がよく分からない人のために一言付け加えた……Don't take me wrong, but ...(^_^)。

これにて第 103 回目終わり。